

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	大阪発達総合療育センター ふたば		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子(子どもとご家族)に寄り添った、安心・安全で楽しい場と支援の提供 (・問27「子どもは安心感を持って通所していますか」問28「子どもは通所を楽しみにしていますか」問29「じぎょうしょのしえんにまんぞくしていますか」は100%が「はい」と回答していただきました。また、問17「共感的に支援されている」には95%の同評価をいただいています。)	保育士を中心に、看護師、各療法士(PT、OT、ST)が多職種で連携しながら保育を提供しています。また、上記職員に加えて医師、心理士、相談員も参画したケースカンファレンスを行い、個々の課題やニーズへの対応を検討しています。	今後も個々の子どもやご家族の課題やニーズに応じた支援の提供を図るため、左記の取り組みの他、療育講座や行事の工夫等にも取り組んでまいります。
2	個々の子どもの発達や特性に応じた支援の提供	丁寧な個別支援計画の作成に取り組み、支援の実践に繋がっています。(作成に関するアセスメントやモニタリングについての設問にも保護者から高い評価を頂いています。)	今後も子どもの思いや家族ニーズの把握に努めながら個別支援計画の作成を行い、適切な支援(保育)の実践に繋がってまいります。
3	医療と連携した施設での支援提供	当園職員の他にも、病院を併設していることで緊急時の対応等に備えています。	子どもや保護者へのシミュレーション(訓練)の実施等、緊急時に備えた取り組みを図ります。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設設備についての課題	現状の部屋の構造では同日の保育(クラス)の増加や個別支援の実施などの事業運営の展開が困難	利用児、ご家族のニーズに応じた運営の展開ができるよう今後も検討をしていきます。
2	通園についての課題	医療的ケアのある利用児など、電車やバス等の公共の交通機関を利用しにくい方や自家用車を所持していない方に対する送迎を実施していない。	今後、ニーズが高まれば状況に応じて実施を検討します。
3	保護者の方への情報等の発信	現在、便りの発行(月1回)の他、必要な情報は保護者へのlineを用いて行っていますが、インスタグラム等のSNSでの発信はセンターの個人情報管理にかかる手続きのためタイムリーに行えていません。	今後、ホームページやメール、lineでの情報発信以外に有効な手段(SNS等)の柔軟かつ安全な活用を図ります。